

財団法人 国際親善協会

平成21年度事業

平成21年度の事業は、以下の2件である。

- 1) 「第34回ジャパンウィーク 2009年オーストリア・グラーツ」 主催

期 間：2009年11月21日～11月26日

開催地：オーストリア・グラーツ

- 2) 「ザ・フレンドシップ・フォース」活動支援事業

期 間：通年

対 象：全国各フレンドシップフォースクラブ

1) 第34回ジャパンウィーク2009年オーストリア・グラーツ

開催概要

1. 開催地 : オーストリア共和国グラーツ市
2. 開催期間 : 2009年11月21日(土)～26日(木) 6日間
3. 開催規模 : 日本側参加者 700人
4. 現地側参加 : 見学者14,000人
5. 主催 : 財団法人 国際親善協会
6. 開催国側主催 : グラーツ市
7. 後援 : 在オーストリア日本国大使館、経済産業省、国土交通省、文部科学省
オーストリア政府観光局、日本政府観光局(JNTO)、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構(ジェトロ)、財団法人自治体国際化協会、
財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会
8. 助成 : 財団法人双日国際交流財団
9. 協賛 : 日本航空、日本興亜損害保険株式会社、
株式会社みずほコーポレート銀行、
西日本旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、
株式会社日本旅行
10. 目的 : 「ジャパンウィーク」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、市民レベルの文化交流により、相互理解・友好親善を図る。
この「ジャパンウィーク」は、各会場での公演、展示、実演などによって構成されているが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴がある。

参加団体一覧

青森県	自然食レストラン 洋望荘／野菜細工
栃木県	津軽三味線貢清世会／津軽三味線
埼玉県	特定非営利活動法人 日本剪画協会／剪画
東京都	(株)アートクロス／美術品 久保 敏／うどん実演 The Traditional Japanese Art of Mizuhiki／水引工芸 全日本婚礼美容家協会／婚礼衣装 早稲田大学書道会／書道 早稲田ちんどん研究会／ちんどん神奈川県 梨羽 太朗／剣舞
長野県	長門学院／茶道岐阜県 CENTRE de DANSE de OGAKI／バレエ 日本弦楽指導者協会中部支部 弦楽アンサンブル／弦楽アンサンブル
静岡県	がんばる邦楽振興会／邦楽 JAZZ ARAKAWA'S DANCING／ジャズダンス 松濤流／いけばな 煎茶道静風流／煎茶道
愛知県	生田流箏曲寿都音会／箏 太鼓衆 翔鼓／和太鼓 特定非営利活動法人 転輪太鼓／和太鼓
滋賀県	山崎昌伸詩画集／詩画集
京都府	京小町踊り子隊／創作舞踊 日本伝統古武道法典流練心塾／古武道
大阪府	大阪府立芥川高等学校 和太鼓部／和太鼓 マクロビクッキングスクール／料理交流 西日本友好親善訪問団／視察・交流
兵庫県	宝塚茶道同好会／茶道
和歌山県	スタジオぽこ・あ・ぽこ／タップダンス
グラーツ	金沢舞踏館／舞踏、NUU／Jポップ、Stevies Wonder Glasses／Hip Hop、 Teruhisa Hiraki／バイオリン、HIB, ART, CHOR／ コーラス、Sogetsu Ikebana GRAZ ／華道、Origin of Ikebana Ikenobo／華道、Yoshiko Kusakawa-KORYU IKEBANA／ 華道、Origami GRAZ／折り紙、Harald Hengl／茶道

合計 38 団体

<全体の総評>

オーストリア・ウィーンの南に位置し、ユネスコ世界遺産指定の美しい旧市街とユニークな現代建築が対照的なグラーツ。そのグラーツにて日澳交流140周年事業として、2009年11月21日から11月26日までの6日間にわたり「第34回ジャパンウィーク2009年オーストリア・グラーツ」が開催された。

さまざまな文化活動を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国より28団体・700人におよぶ方々がグラーツを訪れた。

また、オーストリア側からも舞台公演、音楽フェスティバルそして展示・実演に70人のご参加をいただいた。現地参加型の「双方向の交流」（日本側の参加者だけでなく、オーストリア側からも参加いただき「交流」する）を大きなテーマとして、両国民同士のきずなを深めた。

オープニングフェスティバル、舞台公演、音楽フェスティバル、展示・実演、そしてさまざまな訪問交流プログラムが6日間にわたり行われ、グラーツ市民はじめオーストリア国民が多数来場し、大盛況であった。ジャパンウィークは感動・かけがえのない体験・草の根交流の6日間であった。

＜事業の実施概要＞

1. ジャパンウィーク運営組織について

当事業は日本・オーストリア両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男／財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、オーストリア側はジークフリート・ナーゲル グラーツ市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知PR活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定プログラムの主旨をグラーツ市に理解していただき、主なイベント会場を市の中心部にご用意頂いた。

日本より都合5回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確実なものにして行った。

日本側では2008年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、グラーツ市、グラーツ市観光局そしてコーディネーターの皆様にご協力いただいたおかげで観客動員ができた。下記が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

(1) メディアでのプロモーション

ウェブサイト、新聞を中心としたPR展開を実施していただいた。

① グラーツ市観光局のウェブサイト

観光局市のウェブサイトにも、当協会のウェブサイトをリンクすることも含めてPRいただいた。

② 新聞、雑誌

グラーツの新聞はKLEINEにて、7月末からジャパンウィーク関連記事、および参加団体について計11回記事を掲載していただいた。また、文化専門新聞KORSO、文化雑誌BIGとWAS IST WOにもジャパンウィーク開催前にジャパンウィークをご紹介いただいた。

③ テレビ

11月22日、オープニングフェスティバル時に国営テレビの取材があった。

(2) PRツール作成およびその配布

下記①は9月、②～⑥は11月より展開、

①・②・③配布先はレストラン、ホテル、市内学校等

①告知用折りたたみリーフレット(10.5cm×21cm) 25,000枚

②イベントプログラム(15cm×18cm) 5,000部

③トライアングルボード(立地型三面の広告ボード) 20個

④ヤミクニ広場での電子ビデオボード

11月13日～21日 1日20回 ジャパンウィークの紹介

⑤ポスター トラム、バスの側面でもPR

A1サイズ(59.4cm×84.1cm) 300枚

A2サイズ(42cm×59.4cm) 200枚

A3サイズ(29.7×42cm) 300枚

⑥オールアップ(布製の立地型看板) 6ピース(市庁舎、劇場、展示会場等)

3. イベントプログラムについて

ジャパンウィークの大きなテーマは「双方向の交流」であるが、日本側のみの参加だけでなく舞台公演、展示・実演についてオーストリア側からの団体にも参加していただき、出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

イベントは11月21日（土）の午後にマリアヒルファー広場にてオープニングフェスティバルが開催されジャパンウィークの幕があけた。その後、ミノリテンザールでのオープニングレセプション、オルファウムでの舞台公演と続いた。

舞台公演は25日（水）まで毎日開催され、26日（木）には公演の最後として、ステファニエンザールにて音楽フェスティバルが開催された。

展示・実演は22日（日）のシュタイアーマルク州による、リボンカッティング&レセプションに始まり、26日（木）まで実施された。

交流プログラムの学校訪問については10団体、老人ホームについては2団体が参加し、美術専門学校との交流プログラム、料理交流プログラム、舞踊交流プログラム、バレエ交流団体、家庭料理交流プログラムにはそれぞれ1団体ずつ参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。

毎年参加いただいている西日本親善訪問団は、鉄道シンポジウム、交流会イベントおよびグラーツナイトにて大いに親善交流の輪を広げていただいた。

4. 在オーストリア日本国大使館のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィークが大盛況に終えることができたのは一重に在オーストリア日本国大使館の田中大使、公式プログラムにご臨席をいただいた神山公使ご夫妻をはじめ大使館の皆様のご協力による賜物である。

今回も数多くのボランティアの方々にご協力して頂いた。ボランティアについては、グラーツ在住のオーストリア人学生、日本人留学生、在留邦人など幅広い皆様にご協力いただいた。ジャパンウィーク・スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張っていた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィークの成功はありえなかったと言っても過言ではない。

5. グラーツにおけるスタッフの活躍

グラーツでのジャパンウィーク開催が決定してからイベントが終了するまで、グラーツにおける以下の方々には日本側との実務上のきめこまやかな打ち合わせと準備で大変ご協力いただき、彼らの活躍が今回のジャパンウィークを成功へと導いた。

コーディネーター： Mag. Dr. Monika Cigler

グラーツ観光局： 局長 Mag. Dieter Hardt-Stremayr
Mr. Heinz Kaltschmidt

グラーツ市国際部： Mag. Iur. Claudia Sachs-Lorbeck

<イベントプログラムの実施概要>

オープニング・フェスティバル

日時： 11月21日(土) 15:00 ~ 17:00

場所： マリアヒルファー広場 特設ステージ

日本側： 愛知和男財団会長、神山武在オーストリア日本国大使館公使、宮坂寿彦理事代理、上川裕秀理事、鈴木勝雄理事代理、古田親吾財団常務理事

オーストリア側： ジークフリート・ナーグル市長、デトレブ・アイゼル市議会議員、ソニア・グラブナー市議会議員、クアハート・リューシュ市議会議員、マリオ・エウス

タキオ市議会議員、ピーター・ピプル ペルチュビッチグラーツ市
国民党首ロベルタ・マイアーホーファーグラーツ大学副学長

参加者： 太鼓衆翔鼓、京小町踊り子隊、CENTRE de DANSE de OGAKI、転輪太鼓、早稲田ちんどん研究会

観客数： 1,500名

天候： 晴れ

所見： この時期のヨーロッパでは珍しい、朝から雲ひとつない快晴、気温も上がりこれ以上は望めない最高の日和となり、超満員の観客が広場を埋め尽くしてくれた。今回のジャパンウィークの成功を確約してくれている感のあるオープニング・フェスティバルになった。

いよいよ開幕、早稲田ちんどんのコミカルな衣装とパフォーマンスでオープニングフェスティバルの幕が開き、大きな拍手が送られた。

グラーツ市長、愛知会長、神山公使のご挨拶に続き、転輪太鼓の勇壮な和太鼓の音が響き渡ると、観客のどよめきがわきあがった。京小町踊り子隊による初々しいお嬢さんたちの美しい群舞、そして再び翔鼓のみなさんによる和太鼓演奏とつづいた。

観客は、最後まで誰一人帰ること無く、暖かい大きな拍手を送ってくださっていた。終焉後、出演者たちの顔が、達成感と満足感で輝いていた。



オープニング・レセプション

日 時 : 11月21日(土) 17:30 ~ 19:30
場 所 : ミノリテンザール
日本側 : 愛知和男財団会長、神山武在オーストリア日本国大使館公使、宮坂寿彦理事代理、上川裕秀理事、鈴木勝雄理事代理、古田親吾財団常務理事
オーストリア側 : ジークフリート・ナーグル市長、デトレブ・アイゼル市議会議員、ソニア・グラープナー市議会議員、クアハート・リューシュ市議会議員、マリオ・エウスタキオ市議会議員、
ピーター・ピプル・ペルチュビッチグラーツ市国民党首、
ロベルタ・マイアーホーファーグラーツ大学副学長

参加団体 : 18団体

所 見 : 「オープニング・フェスティバル」を穏やかな日よりの中で無事に終えることができたおかげで、和やかな雰囲気でのレセプションを始めることが出来た。レセプションスタート時には地元の舞踊音楽演奏グループが軽やかな音楽で出迎えた。レセプションはほぼ時間通りに始まり、日本・オーストリア双方のスピーチが参加者の気持ちを高揚させてくれた。愛知会長とグラーツ市長との両国を代表するプレゼント交換の後、参加証書がグラーツ市長より各出席団体代表にステージ上で手渡された。引き続き、ストラスブール市長より「乾杯」の挨拶がなされ、参加者は舞踊音楽演奏を聴きながら、用意いただいた飲み物やパーティー料理を楽しみ、両国の実行委員会と歓談をした。また、最後にはステージに上がってグラーツ市長と記念撮影をする団体が多数あり、思い出に残るレセプションのひとつときであった。

劇場公演

日 時 : 11月21日(土)、22日(日)、23日(月)、24日(火)、25日(水)
場 所 : オルフェウム
観客数 : 3,000名(満席)

グラーツの中心、市庁舎前の広場のクリスマスマーケットスタンドの中の一番目立つ場所にグラーツ市観光局がジャパンウィーク舞台公演チケット予約およびお渡し、および茶道予約スタンドを11月10日すぎに設置した。スタンド設定後すぐに週末のオルフェウムの「舞台公演」、のチケットがすぐに予約でいっぱいとなった。結果として、オルフェウムでの舞台公演日すべてとステファニエンザールでの「音楽フェスティバル」は満員御礼となった。また、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、このイベントの成功を劇場公演で確信した。

観客の反応も大喝采の拍手の連続、ときにはスタンディングオベーションもあり、公演は大成功のうちに幕を下ろした。

音楽交流フェスティバル

日 時 : 11月26日(木) 19:30 ~ 22:00
場 所 : ステファニエンザール
観客数 : 1,200名(満席)
参加者 : 日本弦楽指導者協会中部支部弦楽アンサンブル、HIB . ARTCHOR (現地参加)、
Teruhisa Hiraki (現地参加)、津軽三味線貢清世会、
大阪府立芥川高等学校和太鼓部

ジャパンウィークの最終日、会場が変わって、コンサートホール・ステファニエンザール。会場の収容人員が1200名と大きく、観客の入り心配だったが、おかげさまで今日も満席、グラーツ市、および観光局のPRに改めて感謝。

日本弦楽指導者協会中部支部弦楽アンサンブルの弦楽アンサンブルで幕を開け、地元子どもコーラスグループ HIB. art. chor が加わった「ふるさと」を、弦楽アンサンブルの演奏で彼らが歌って大拍手。続いては、地元在中、15才のヴァイオリニスト、Teruhisa Hiraki のヴァイオリン演奏。彼の演奏はかなりのレベルで、将来ソリストとして活躍出来るほどの素晴らしい演奏で、観客を魅了していた。

休憩を挟んで、津軽三味線貢清世会の琴と三味線の演奏、そして最後は大阪府立芥川高等学校和太鼓部による和太鼓演奏。昨晚も見せてくれた演奏の見事さ、全体の構成の魅力、演奏技術のすばらしさ、そして高校生の若い迫力が、観客心を充分にとらえていた。鳴り止まぬスタンディングオベーション。

今回のジャパンウィークの締めくくりにふさわしい演奏であった。

出演者の皆様、現地側の主催者であるグラーツ市および観光局、そして観客の皆様改めて感謝の気持ちでいっぱいになった。



リボン・カッティング

日 時 : 11月22日(日) 10:00 ~ 12:00
場 所 : アルテ・ユニヴェルシダート
観 客 : 400名
日本側 : 愛知和男財団会長、神山武在オーストリア日本国大使館公使、
宮坂寿彦理事、上川裕秀理事、鈴木勝雄理事代理、古田親吾財団常務理事
オーストリア側 : クルト・フレッカーシュタイアーマルク州議会議長、
ソニア・グラープナー市議会議長、

参加団体 : 13団体

朝は濃い霧に包まれていたグラーツの町も、時間とともに晴れ渡った11月22日の日曜日、シュタイアーマルク州が所有する、アルテユニヴェルシダートでリボンカッティングセレモニーは開催された。最初に、シュタイアーマルク州議会議長のクルト・フレッカー氏より両国の列席代表者の紹介と開催の挨拶があり、ひきつづき愛知会長より開会の挨拶と今回の展示・実演のご参加者の紹介があったが、ご参加の各グループに質問を投げかけたり、今回のジャパンウィークへの参加についてのコメントを求めたりしていただき和やかな雰囲気を作り出していただいた。最後に在オーストリア日本国大使館の神山公使よりドイツ語と日本語でのご挨拶をいただいた。続いて、愛知会長とフレッカー議長によるリボンカッティングが行われ、それを合図にシュタイアーマルク州主催の歓迎レセプションが行われ、軽食とドリンクが振る舞われた。その後、日奥両国の列席代表者による展示会場の巡回が行なわれ、フレッカー議長は日本側の実行委員とともに展示・実演のご参加者に声をかけられ、展示作品と実演に見入り、当初の予定を延長して会場を見て廻られた。

展示・実演

日 時 : 11月22日(日) ~ 26日(木)
場 所 : アルテユニヴェルシダート 入場者(延べ人数)

11月22日(日)	1,600名
11月23日(月)	950名
11月24日(火)	870名
11月25日(水)	950名
11月26日(木)	430名
合計	4,800名

場 所 : スタッド・ミュージアム 入場者(延べ人数)

11月22日(日)	200名
11月23日(月)	120名
11月24日(火)	100名
11月25日(水)	150名
11月26日(木)	90名
合計	660名

本年は、一般の展示・実演参加者の皆様については、アルテユニヴェルシダート、株式会社アートクロスの美術展としてはスタッド・ミュージアムと、2箇所での展示となった。

アルテユニヴェルシダートでは、ご参加された皆様及び現地グラーツの華道、折り紙グループ等のご協力により、会期の後半にも実演を行うようにプログラムを組むことができた。また、お茶会場も展示会場と同じ場所であり、会場は大変多くの来場者で活気のある展示会場となった。開催日2日目の11月23日（月曜日）には、ジークフリート、グラーツ市長もご夫人同伴で展示会場を訪れて、展示・実演を十分楽しんでいただいた。

また、スタッド・ミュージアムでは日本画・水墨画・洋画・書道・工芸におよぶ約100点の作品が展示され、グラーツの市民の皆様には、各カテゴリー別に展示された、日本美術の歴史、伝統、多様性を楽しんでいただいた。



<スタッド・ミュージアム>

株式会社アートクロス
株式会社アートクロス様がスタッド・ミュージアムにて「～日本・オーストリア外交140周年記念～
Japan Art Festival in Graz 2009」を開催いただいた。約100点の日本美術の作品は5部門に分かれて展示された。ご来場された市民の皆様は高齢のご夫婦が大多数を占めていたが、学生の団体や若い方が一人で訪問される方もいた。ご来場された皆様からはスタッド・ミュージアムのスタッフも活気あふれた博物館内の雰囲気驚いていた様子だった。



表敬訪問

日 時 : 11月23日(月) 14:30 ~ 15:30

場 所 : グラーツ市庁舎

市庁舎内の市議会場にて、宝塚茶道同好会、梨羽太朗、The Traditional Japanese Art of Mizuhiki、Centre de DANSE de OGAKI、スタジオぽこ・あ・ぽこの皆様お待ちになる中でジークフリート・ナーグルグラーツ市長がご来場し、表敬訪問がスタートした。はじめに市長から歓迎のご挨拶をいただき、そしてオープングレセプションにご参加されなかった団体代表へ市長より「参加証書」と、グラーツ市のバッジが手渡され、同時に各団体代表より自己紹介が行われ、市長には興味深く話を聞いて頂いた。その後、場所をレセプションバンケットに移し、グラーツ市側にご用意いただいた軽食と飲み物を味わいながら、市長との歓談や写真撮影を参加団体の皆様は楽しんだ。

交流プログラム (学校訪問・老人ホーム)

日 時 : 11月23日(月)、24日(火)、25日(水)

学校訪問は午前中、老人ホームは午後

10の参加団体が学校に訪問し(8小学校、1中学校、1高校)、2つの参加団体が老人ホームに訪問し、交流イベントを行った。

リズムを感じていた。その後のワークショップでも太鼓のたたき方等を習うなどして交流した。

展示・実演のグループの訪問交流では、訪問先の老人ホームで実演でのお茶、お菓などに大変喜んでいただき、各訪問先では参加者への質問の受け答えも含めて和気あいあいの楽しい雰囲気の中での交流を進めることができた。



交流プログラム (家庭訪問・料理)

【The Traditional Japanese Art of Mizuhiki】

日 時 : 11月25日(水) 09:20 ~ 13:15
訪問家庭名 : ブルンナー家(Ms. Brunner)
所 見 : グラーツの郊外に住む Brunner 家を訪問した。奥様のドリス氏にオーストリアの伝統的なスープ、牛肉のラグー、アップルパイを作っていた。はじめは The Traditional Japanese Art of Mizuhiki は見るだけでしたが、そのうちに一緒になって料理作りを楽しんでいただいた。ドリス氏がアップルパイの生地をうまく形を崩さず真上に投げて大きくする様子に皆様は驚いていた。出来上がった食事は大好評であった。最後にドリス氏の8歳の息子さんが、ギターを弾きながらクリスマスの歌でもてなしてくれた。

交流プログラム (舞踊交流)

【スタジオぼこ・あ・ぼこ】

日 時 : 11月23日(月) 18:30 ~ 21:15
交流舞踊グループ名 : フォルクスタンツグルッペ シュタッテック バイ グラー
(Volkstanzgruppe Stattegg bei Graz)
舞踊交流場所 : Sportbistro (グラーツ郊外スポーツセンター)
舞踊交流対象 : フォークダンス愛好家 15名
所 見 : お互いの挨拶とみんなで輪になってのフォークダンスを少しすることによって交流が始まった。
まずそれぞれ数曲づつ、タップダンスとフォークダンスを披露した。
グラーツ側グループはアコーディオンを弾いていただく方もいた。
そしてそれぞれ、互いの踊りを互いに教えあった。
グラーツ側グループにとってはスタジオぼこ・あ・ぼこの皆様が踊る、タップダンスは難しいようであったが、お互いににこやかにとても楽しい交流の時を過ごした。

交流プログラム（バレエ交流）

【Centre de Danse de Ogaki】

日 時： 11月24日（火） 12：30 ～ 16：15

交流バレエ学校名： ロイヤル アカデミー オブ ダンス (Royal Academy of Dance)

交流場所： バレエ学校内スタジオおよび近くの劇場（Nice Little Theater）

交流対象： バレエ学校に通う小学生（10～15歳）10名

所 見： Centre de Danse de Ogakiの皆様はロイヤル アカデミー オブ ダンスの学校内スタジオにて、バレエ交流を

行なった。ロイヤル アカデミー オブ ダンスの学校長からは「勤勉な生徒さんですね」というお褒めの言葉を頂いた。Centre de Danse de Ogakiの皆様にとっても、「素晴らしい個性に満ち溢れた表現能力に触れて、当初望んでいた感受性豊かなこの時期にこそ、この学校にて見聞を広められたことは、生徒さんたちの今後の輝かしい未来に素晴らしい思い出になった。」とのコメントをいただいた。



交流プログラム（料理交流）

【マクロビクッキングスクール】

日 時： 11月24日（火） 08：00～15：00

交流場所： ライフアイゼンホーフ (Raiffeisenhof)

交流対象： 料理家 Mr. Edler および一般市民 30名

所 見： この日の料理交流は、日本・グラーツ双方で料理を作り、合同試食会をするというプログラムであった。日本側はマクロビクッキングスクールが「マクロビすしケーキ」及び「ショコラ風玄米おはぎ」を、グラーツ側は Mr. Edler と彼の助手が「すずき（魚）のバター焼きと野菜のリゾット」と「甘い豆のデザート」を作った。途中お互いに作る過程を垣間見て楽しんだ。来場された市民の皆様はマクロビクッキングスクールの皆様より玄米を「型」に入れて「寿司ケーキ」を作り、上に野菜を置く作業をととても楽しく教えて頂き、できあがったケーキをその場で試食した。

「寿司ケーキ」は見た目がとてもきれいで、大変ヘルシーであり、市民および Mr. Edler に試食を堪能していただいた。また、「ショコラ風玄米おはぎ」はまさに見た目はチョコレートケーキだが、甘くなく、これもとても上品でヘルシーな一品であった。Mr. Edler と彼の助手が作った「すずき（魚）と野菜のリゾット」と「オーストリア風デザート」も大変おいしく、日本側、およびグラーツ市民に大好評であった。最後にマクロビクッキングスクールの皆様と Mr. Edler は歓談を楽しみ、交流は和やかな雰囲気終了した。

野外宣伝（パフォーマンス）

【早稲田ちんどん研究会】

日 時： 11月21日（土）の午前、22日（日）の午前、及び23日（火）午後
場 所： グラーツ市内中心地区
所 見： 早稲田ちんどん研究会の皆様の路上でのパフォーマンスは、目立つ衣装、ライブの音楽によって大変多くのグラーツの市民を魅了した。早稲田ちんどん研究会の皆様はオーストリアの曲を演奏したり、市民の皆様にご挨拶したり、風船で子供たちのために動物を作ってあげたりしていただいていた市民を楽しませてくれた。中にはオーストリアの歌を演奏していただいていたときにその曲に合わせて踊りだす市民の方もいた。皆様のパフォーマンスはジャパンウィークへ市民の関心を取り込んでいただいた。市民と身近なところでふれあいがらの貴重な野外宣伝であった。

西日本友好親善訪問団 交流プログラム

【グラーツ市内観光と日本語を勉強しているグラーツの学生との訪問交流会】

日 時： 11月20日（金）、23日（月）、25日（水）、27日（金）
場 所： 各ホテル→グラーツ市内観光→グラーツ訪問交流会
西日本各地から有志が参加している西日本友好親善訪問団は、鉄道関係業務に従事している参加者が多いことから、グラーツ訪問の前後どちらかで世界遺産であるセメリング鉄道（グログニッツ～ミュルツツシュラク間）に乗車した。グラーツに到着した翌日は、午前中各滞在ホテルを出発し、現地ガイドの案内のもとグラーツ市内を徒歩で観光。市庁舎やハウプト広場など世界遺産である旧市街や、ケーブルカーでシュロスベルクに上り赤い屋根が続く町並みを一望し、シンボルである時計台を見学。一同は旧市街の美しい町並みに感銘を受けた。その後、ジャパンウィークの目的のひとつでもある国際親善交流の機会として、日本語を勉強しているグラーツの学生との訪問交流会を開催した。学生には何故日本語に興味を持ったのか、勉強した日本語を今後どのように生かしていきたいかという点を切口にスピーチを展開、訪問者一同興味深く聞き入った。また本年初めての試みで、グラーツに留学している日本人の学生にも参加していただき、日本人から見たオーストリアについても語っていただいた。スピーチの後は質問タイムとなり、日本とオーストリアの違いや、アニメや漫画といったサブカルチャーなどの話題も出て、あっという間の1時間半が過ぎ去った。最後は参加各団体の代表が学生におみやげを手渡し、交流会は終了した。
なお本年はこの他、23日にグラーツ市内のコンGRESグラーツにて、オーストリア連邦鉄道との鉄道シンポジウムも開催された。

【グラーツナイト】

日 時： 11月20日(金)、23日(月)、25日(水)、26日(木)

場 所： ミノリテンザール

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、グラーツ市迎賓施設「ミノリテンザール」にて夕食会「グラーツナイト」を開催。

参加者全員が着席後、地元グラーツ国立芸術大学で音楽を勉強されている皆様にミニ・オーケストラ「ライジング・スター」を今回特別に結成していただき、グラーツナイト開会前にミニコンサートを開催した。曲目はモーツアルトやヨハン・シュトラウス2世などを中心とした名曲を選曲。素晴らしい演奏に参加者も感動し、会場内が拍手喝采で包まれた。

ミニコンサートにより会場が一気に盛り上がった後、日本側は23日が鈴木勝雄氏／株式会社日本旅行代表取締役専務、20日・25日・26日が原田好博氏／株式会社日本旅行執行役員西日本営業本部長、オーストリア側は20日がピーター・ハーゲナウアー氏／グラーツ市市議会議員、23日がゲルハルト・リュージュ氏／グラーツ市市議会議員、25日がペーター・ピッフエル・ペルセビツチュ氏／グラーツ市市議会議員、26日がゲルハルト・マッハー氏／区長のそれぞれのご挨拶で開始されたグラーツナイトは、参加者の皆様にオーストリア郷土料理のコース料理をご堪能いただく一方、食事の合間には地元グラーツの少年少女による合唱も披露され、特に「さくら」と最後の「ふるさと」の合唱は、異郷の地で聞く日本語の歌声が聴衆一同に大きな感動を与えた。

そしてこの夕食会は盛況のうちにおひらきの時間となり、来年の開催地ポルトガル、ポルトの案内とともに終了した。

<ま と め>

今回のジャパンウィーク開催にあたり、グラーツ市側関係者並びにオーストリア側実行委員会の日本・オーストリア友好のための熱心な受入の協力に感謝申し上げます。またジャパンウィーク運営を支えてくれた、オーストリアにおいては在ウィーン日本国大使館、そして日本においてはオーストリア政府観光局の皆様方に厚く御礼申し上げます。わけても昼夜を問わず共にこの運営に携わっていただいた現地コーディネーターそしてジャパンウィークの主旨にご賛同いただき、お忙しい中にも関わらずボランティアを買って出てくれた皆様方、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々のご協力なくして無事終了する事は出来ませんでした。ここに深く感謝申し上げます。

また経済情勢をはじめとする、世界が依然混沌とする中で、日本全国各地よりジャパンウィークの趣旨にご賛同いただき、ご参加いただき日本・オーストリアでの草の根レベルの国際交流にご活躍された皆様方に厚く御礼申し上げます。

真摯な相互理解・異文化理解の輪を広げて、世界が心一つになれることにジャパンウィークを通じて貢献できれば幸いです。

皆様方のご支援・ご協力を引き続きお願い申し上げる次第です。

フレンドシップフォース日本2009年度受け入れ事業

受入クラブ名	交換No.	日程	担当クラブ	人数
Ottawa, Canada	9096	3/18-	福岡	17
Taichung, Taiwan	9221	3/24-30	埼玉	19
Budapest & Szekesfehevar, Hungary	9142	4/5-12	愛媛	17
Nanyang, Singapore	9215	4/01-07	東京	—
Marlborough, New Zealand	9194	5/09-	山口	13
Oregon's Mid-Willamette Valley, USA	9309	3/30-	奈良 愛知	10
Christchurch, New Zealand	9189	5月	三重	—
Greater Denver, USA	9273	5/07-	大分	19
Napa-Sonoma, USA	9299		札幌	17
New Plymouth, New Zealand	9195	5月	大阪	—
Saratov, Russia	9382	5/21-	京都福知山他	
Fort Worth, USA	9267	5/14-	宮城	16
Southland, NZ	9309	5月	愛知	—
Big Canoe, USA	9245	11/04- -18	静岡 三重	10
Montreal, Canada	9090	10/07-	鳥取 岐阜	21 20
Devon, UK	9231	11/05-	長崎 太田群馬	12
Merseburg/Humburg, Germany	9127	10/18-25 10/11-18	東京 山形	16
Jakarta, Indonesia	9146	11月	大分	—
Olympia, USA	9307	10/21-	大阪	18
Sussex, UK	9358	10月	太田群馬	—
Charlottesville, USA	9252	11月	郡山 福岡	6
Greater Harrisburg/Central N Carolina, USA	9276	11/08-	愛知	13
St. Petersburg, Russia	9213	11月	岐阜	—
Connecticut, & Houston, USA	9281	11/06- 11/13- 11/19-	熊本 東京 広島	9 16 10
Gardeners exchange	9411	11月	福岡	—
合計・交換数				279

2009年フレンドシップフォース日本渡航事業

担当クラブ	交換No.	日程	訪問クラブ名	人数
愛知	9148	3/15-30	Western Waikato, Manuwatu, New Zealand	11
岐阜・宮城	9150	3/22-	Cairo, Egypt	17
札幌	9162	4/09-	Kaohsiung, Taiwan	19
東京	9165	4/23-	Las Vegas, Lower Columbia, USA	21
太田群馬	9160	5/08-	Canadian Capital Region, Canada Southern New Jersey, USA	17
広島	9151	9/21-	Auckland-North Shore, Taupo, New Zealand	10
長崎	9156	5/14-22	Luebeck, Germany	15
東京	9166	5/27-	Baku, Azerbaijan	18
静岡	9163	5/27-	Whidney Island, USA	9
愛媛	9169	5/14-22	Ankara, Turkey	12
鳥取				11
郡山	9152	6/10-	Calgary, Canada	-
熊本	9153	6月	Tbilisi, Georgia	-
京都福知山	9154	7/18-	Bavaria, Germany	17
山形	9167	7/18-	Pikes Peak Region, USA	-
奈良	9157	8/24-	Manitoba, Canada,	20
		9/07	Eastern Nebraska, USA	17
大分		9/02-	Kiel, &	12
	9158	-16	Herne, Germany	14
大阪	9159	9/04-	Vogtland, & Varel, Germany	15
東京	9164	9/02-	West of Scotland, UK	16
福岡	9149	9/02-	Honolulu, USA	18
山口	9168	9月	Western North Carolina, USA	-
埼玉	9161	10/21-	Horowhenua,	
		11/4	Wellington, New Zealand	20
	9015	11月	沖縄世界大会	-
三重	9155	11/28-	Vietnam	12
合計				312